

『表現学』第四号（平成三〇年二月二十五日）抜刷  
大正大学表現学部表現文化学科

『敦煌秘笈』所収の礼懺文について

—羽〇三九・羽六八三・羽七五五の翻刻と研究—

大屋正順



# 『敦煌秘笈』所収の礼懺文について

—羽〇三九・羽六八三・羽七五五の翻刻と研究—

大屋正順

はじめに

本稿では、『敦煌秘笈』で題名に礼懺文と表記があるもの、内容が礼懺文と重なるものを取りあげ、翻刻を行いその特徴を報告する〔1〕。翻刻では判読不能な文字は「・」で示し、一部欠けているものの判読できる文字には（ ）を付した。

一 翻刻

一一 羽〇三九

【羽〇三九R—1】

- 001 南无東方須弥灯光明如来十方佛等一切諸佛
- 002 南无毗婆尸如来過去七仏等一切諸佛
- 003 南无普光如来五十三仏等一切諸佛
- 004 南无普光佛 南无普明佛
- 005 南无普淨佛 南无多摩(羅)跋梅檀佛
- 006 南无梅檀光佛 南无摩尼幢佛
- 007 南无歡(喜)藏摩尼寶積佛
- 008 南无一切世間樂見上大精進佛
- 009 南无摩尼幢燈光佛 南无惠炬照佛
- 010 南无海德光明佛 南无金剛牢強普敬
- 011 南无大強精進佛 南无大悲光佛
- 012 南无怒力王佛 南无慈藏佛
- 013 南无梅檀窟莊嚴勝佛 南无賢善首佛
- 014 南无善意佛 南无廣莊嚴王佛
- 015 南无金華光佛 南无寶蓋照空自在佛
- 016 南无虚空寶華佛 南无琉璃莊嚴王佛
- 017 南无普現色身光佛 南无不動智光佛
- 018 南无降伏諸魔王佛 南无財光明佛

- 019 南无智惠勝佛 南无弥勒仙佛
- 020 南无世静光佛 南无善寂月音妙勝王佛
- 021 南无龍種尊王佛 南无日月光佛
- 022 南无日月珠光佛 南无惠幢勝王佛
- 023 南无師子吼自在力王佛 南无妙音勝佛
- 024 南无常光幢佛 南无觀世燈佛
- 025 南无惠威王佛 南无法勝王佛
- 026 南无須弥光佛 南无須曼那華佛
- 027 南无優曇鉢羅花珠佛 南无大惠力王佛
- 【羽〇三九R—2】
- 028 南无阿閼毗歡喜光佛 南无無量音聲王佛
- 029 南无財光佛 南无金海光佛
- 030 南无山海慧自在通王佛 南无大通光佛
- 031 南无一切法常滿王佛 南无大慈光佛佛
- 032 南无大慈光佛 南无大慈光佛佛
- 033 南无大慈光佛 南无大慈光佛佛
- 034 南无東方善德如来十方无量佛等一切諸佛
- 035 南无拘那提如来賢劫千佛等一切諸佛
- 036 南无釋迦牟尼如来三十五佛等一切諸佛
- 037 南无釋迦牟尼佛 南无金剛不懷佛
- 038 南无寶光佛 南无龍尊王佛
- 039 南无精進軍佛 南无精進喜佛
- 040 南无寶火佛 南无寶月光佛
- 041 南无現无愚佛 南无寶月佛
- 042 南无無垢佛 南无離垢佛

- 043 南无勇施佛 南无清淨佛  
 044 南无清淨施佛 南无婆留那佛  
 045 南无水天佛 南无堅德佛  
 046 南无旃檀功德佛 南无無量掬光佛  
 047 南无光德佛 南无無憂德佛  
 048 南无那羅延佛 南无功德花佛  
 049 南无蓮花遊喜神通佛 南无財功德佛  
 050 南无德念佛 南无善名稱功德佛  
 051 南无紅燄幢王佛 南无善遊步功德佛  
 052 南无鬪戰勝佛 南无善遊步佛  
 053 南无周匝莊嚴功德佛 南无寶華遊步佛  
 054 南无寶蓮華善住娑羅樹王佛 華上華上苑在其  
且顯名此世五佛  
 055 毗尼經  
名目略釋
- 【卍〇三九 R—3】
- 056 南无東方阿閼如来十方无量佛等一切諸佛  
 057 南无寶集如来廿五佛等一切諸佛  
 058 南无寶集佛 南无寶勝佛  
 059 南无成就盧舍那佛 南无盧舍那鏡像佛  
 060 南无盧舍那光明佛 南无不動佛  
 061 南无大光明佛 南无無量聲如来 二言  
三礼  
 062 南无阿弥陀刹沙佛 南无大稱佛  
 063 南无寶明光佛 南无得大無畏佛  
 064 南无然燈火佛 南无實聲佛  
 065 南无無邊無垢佛 南无月聲佛  
 066 南无無邊稱佛 南无日月光明世尊 三言  
三礼  
 067 南无無垢光明佛 南无清淨光明佛  
 068 南无日光明佛 南无無邊寶佛  
 069 南无華勝佛 南无妙身佛  
 070 南无法光明清淨開敷蓮華佛 此五佛皆  
出妙蓮華卷  
 071 南无虚空功德清淨微塵等目端政功德

- 072 相光明華波頭摩琉璃光寶體香最上香供養  
 073 訖種種莊嚴願力頂髻无量无边日月光明願力  
 074 莊嚴變化莊嚴法界出生無障導王如来  
 075 若有善男子善女人仰四單逆勝一寶及犯四逆罪人罪重  
假如閻浮地受微塵一微塵散於一劫入有千劫能定一佛  
名凡一拜其功德勝於摩竭地諸佛總念不著人功不可  
思議  
 076 南无毫相日月光明華寶蓮華堅如金剛身  
 077 毗盧遮那無障導眼圓滿十方放光照一切  
 078 佛刹相王如来 此佛名住十佛稱號最勝  
德勝諸佛  
 079 南无過現未來十方三世一切諸佛歸命懺悔  
 080 如是等一切世界諸佛世尊常住在世是  
 081 諸世尊當慈念我憶念我證知我若  
 082 我此生若我前世從无始生死已來所作  
 083 衆罪若自作若教他作見作隨喜  
 084 若塔若僧四方僧物若自取若教人  
 085 取見取隨喜或作五逆无間重罪若  
 086 自作若教他作見作隨喜十善道自作教他見  
 087 作隨喜所罪障或有覆藏應墮地獄餓鬼  
 088 畜生及諸惡趣邊地下賤及弥戾車如是  
 089 等處所作罪障今皆懺悔  
 090 今諸佛世尊當證知我當憶念我我復  
 091 今諸佛世尊當證知我當憶念我我復
- 【卍〇三九 R—5】
- 092 於諸佛世尊前作如是言若我此生若於餘生  
 093 曾行布施或守淨戒乃至施与畜生一掃之食或  
 094 修淨行所有善根成就衆生所有善根修行善  
 095 提所有善根及无上智所有善根修一切  
 096 合集校計籌量皆悉迴向阿耨多羅三  
 097 藐三菩提如過去未來現在諸佛所作  
 098 迴向我亦如是迴向  
 099 衆罪皆懺悔 諸福盡隨喜 及請佛功德 願成無上智

- 100 去來現在佛 於衆生最勝 无量功德海 歸依合掌礼
- 101 一切誦
- 102 南无摩訶般若波羅蜜 是大明呪 无上明呪
- 103 无無等等明呪
- 104 梵唄文
- 105 處世界 如虛空 如蓮花 不着水 心清淨
- 106 超於彼 稽首礼 无上尊
- 107 說偈發願
- 108 願以此功德 普及於一切 我等与衆生 皆共成佛道
- 109 一切恭敬
- 110 自歸依佛 當願衆生 體解大道 發无上意
- 111 自歸於法 當願衆生 深入經藏 智慧如海
- 112 自歸於僧 當願衆生 統理大衆 一切无導
- 113 願諸衆生 諸惡莫作 諸善奉行 自淨其意
- 114 是諸佛教和南一切賢聖
- 115 白衆等聽說黃昏無常偈
- 116 是日已過 命亦随滅 當觀此身 念念衰老
- 117 一念之間 云何可保 是故衆等 勤修行道
- 118 諸行無常 是生滅法 生滅滅已 寂滅爲樂
- 【羽〇三九R—6】
- 119 如來證涅槃永斷於生死若能至心聽長得
- 120 无量樂随意
- 121 十方三世諸佛當證知弟子某甲等爲一切衆
- 122 生觀一切三寶爲一切衆生礼一切三寶爲一切
- 123 衆生供養一切三寶爲一切衆生於一切三寶
- 124 前行道爲一切衆生於三寶前懺悔爲一切
- 125 衆生作佛像轉經供養衆僧供養一切
- 126 衆生行六波羅蜜四攝四无量等一切行
- 127 已集當集現集一切善根以此善根願
- 128 令一切三塗衆生一切貧窮衆生一切生老

- 128 病死衆生一切獄囚繫閉衆生一切破亡流徙
- 129 衆生一切不自在衆生一切邪見顛倒衆生
- 130 等悉得離苦解脫捨邪歸正發菩提心永
- 131 除常見一切諸佛菩薩及善知識恒聞
- 132 正法福智具足一時作佛
- 133 又以此善根願令一切衆生皆悉上品往生一切
- 134 淨土先證无生忍然後度衆生
- 135 又以此善根願令一切三寶一切國土常得安
- 136 隱不破不壞四方寧靜兵甲休息龍王歡喜
- 137 風調雨順五穀成熟万人安樂
- 138 六時礼拜佛法綱晝夜三三各嚴香華
- 139 入塔觀像供養行道礼拜佛平旦及与
- 140 午時並別唱五十二佛餘階總唱日暮初夜
- 141 並別唱二十五佛餘階總唱半夜後夜並別唱
- 142 廿五佛餘階總唱觀此七階佛如在目前思
- 143 惟如來所有功德應作如是清淨懺悔
- 144 衆生无邊誓願度 煩惱无邊誓願斷
- 145 法門无邊誓願知 无上佛道誓願成
- 【羽〇三九R—7】
- 146 若人不發四弘誓者無有是處
- 147 白衆等聽說寅朝清淨謁
- 148 欲求寂滅樂當學沙門法衣食身命精
- 149 養隨衆等 今日寅朝清淨偈各記六念
- 150 念佛 念法 念僧 念戒 念施 念天
- 151 白衆等聽說午時無常偈
- 152 人生不精進喻若樹無根採花置日中能
- 153 得幾時鮮花亦不久鮮色亦非常好人命
- 154 如剎那百年何可保是故諸衆等勸
- 155 修无上道 黃昏無常偈
- 156 人間匆匆營衆務不覺年命日夜去如燈

- 158 風中滅難期忙六道無定趣未得解脫
  - 159 出苦海云何安然不驚懼各聞強健有力
  - 160 時自策自勵求常住
  - 161 初夜無常偈
  - 162 煩惱深無底生死海無邊度苦船未
  - 163 辨云何樂眠睡眠當覺悟勿令睡
  - 164 覆心勇猛勤精進菩提道自然
  - 165 中夜無常偈
  - 166 汝等物抱屍臥種 不淨假名身
  - 167 如得重病箭入體衆苦痛集安可
  - 168 可眠
  - 169 後夜無常偈
  - 170 時光遷流轉忽至五更初無常念 〃
  - 171 至恒与四王居勸請修道者勤學
  - 172 至無餘
- 【羽〇三九Vノ六一1】
- 001 . . . 一心念 . . . . .
  - 002 . 世界 . 等 . . . . .
  - 003 自歸・佛當願衆生體解大道法无
  - 004 上意自歸依法當願衆生深入經藏智
  - 005 惠如海自歸依僧當願衆生諸惡莫作
  - 006 . 善奉行自淨其意是諸佛教和
  - 007 南一切賢聖 白衆等聽說此時无
  - 008 常偈 世界不牢固如水沫泡炎衆等
  - 009 咸應當疾生厭離心是故諸衆等
  - 010 勸求无上道 寅朝礼懺
  - 011 敬礼毗盧遮那佛 敬礼盧舍那佛
  - 012 敬礼釋迦牟尼佛 敬礼當來下生弥勒
  - 013 尊佛 敬礼東方一切諸佛 敬礼東南
  - 014 一切諸佛 敬礼南方一切諸佛 敬礼西南方

- 015 一切諸佛 敬礼西方一切諸佛 敬礼西北方
  - 016 一切諸佛 敬礼東 . . . 一切諸佛
  - 017 敬礼上方一切諸(佛) . 礼下方一切諸佛
- 【羽〇三九Vノ六一2】
- 018 敬礼過現未來一切諸佛 敬礼利
  - 019 舍形像一切諸佛 敬礼十二部尊經
  - 020 甚深法藏 敬礼諸尊ササ訶摩サ
  - 021 衆 敬礼聲聞緣覺一切賢聖
  - 022 爲二十八天釋梵王等敬礼常住三寶
  - 023 爲諸龍神等風雨順時敬礼常住三寶
  - 024 爲皇帝聖化無窮敬礼常住三寶
  - 025 爲太子諸王福延万業敬礼常住三寶
  - 026 爲国土安寧法輪常轉敬礼常住三寶
  - 027 爲道場施主六度圓滿礼常住住
  - 028 爲師僧父母及善知識敬礼常
  - 029 爲邊方无爲永思弋千敬礼
  - 030 爲四威儀中五常含識敬
  - 031 爲三塗人難受苦衆生敬礼願皆
  - 032 解脫歸命懺念 志心懺念
  - 033 普懺六根三業罪願令除滅不福
  - 034 生勸請十方諸如來流身久住濟
  - 035 含識隨喜稱讚生死永寂證无
  - 036 爲懺念勸請隨喜廻向發願以
  - 037 至心歸命礼三寶
- 【羽〇三九Vノ六一3】
- 038 白衆等聽說寅朝清淨偈
  - 039 欲求寂滅樂當學沙門法衣
  - 040 食支身命精餽諸衆等寅朝清
  - 041 淨各記六念
  - 042 奉報四恩散周沙界和南一切賢

043 聖

一一一 羽六八三

【羽六八三ノ一 (表紙)】

- 001 夜無常偈煩惱深無底生
- 002 死海无邊度苦船未至云何
- 003 樂遂眠遂眠當覺悟物令睡
- 004 覆心勇猛勤精進菩提道自然

【羽六八三ノ二―1】

- 001 寅朝礼
- 002 敬礼毗盧遮那佛 敬礼盧舍那佛
- 003 敬礼釋迦牟尼佛 敬礼東方善德佛
- 004 敬礼東南方無憂德佛 敬礼南方旃檀佛
- 005 ．．． (南方) 寶施佛 敬礼西方無量明佛
- 006 ．．． (方) 華德佛 敬礼北方相得佛
- 007 敬礼東北方三勝行佛 敬礼上方廣衆得佛
- 008 敬礼下方明德佛 敬礼當來下生弥
- 009 勒尊佛 敬礼過現未來十方
- 010 三世一切諸佛 敬礼舍利形像無量

【羽六八三ノ二―2】

- 011 寶塔 敬礼十二部尊經甚深法
- 012 藏 敬礼諸大菩薩摩薩衆
- 013 敬礼聲聞圓覺一切賢聖
- 014 ．． (恭) 敬爲天龍八部諸善神
- 015 敬礼常住三寶 爲過現諸
- 016 師恒爲道首 敬礼常住三寶
- 017 爲帝主聖化无窮 敬礼常住三寶
- 018 寶 爲太子諸王福延葉萬敬
- 019 礼常住三寶

【羽六八三ノ二―3】

- 020 爲師僧父母及善諸<sup>識</sup>敬礼常

021 住三寶 爲十方施主六度圓滿

022 敬礼常住三寶 爲聞路百觀恒

023 基祿雨 敬礼常住三寶

024 ．． (苦) 衆生願皆離苦 敬礼

025 ．． (寶) 爲國土安寧法

026 輪常轉 敬礼常住三寶 爲法

027 界有情礼佛懺悔 至心懺悔

028 十方無量仏所知無不盡我今悉

029 於前發露悔諸惡三三合九衆

【羽六八三ノ二―4】

- 030 從三煩惱起今身若前身有
- 031 罪皆懺悔於三惡道中若應受
- 032 業報願得今身償不入惡道
- 033 首懺悔已歸命礼三寶 至心勸請
- 034 (十方) 諸如来現在成道者我請
- 035 轉法輪安樂諸衆生十方一切仏若
- 036 欲捨授命我今頭面礼勸請礼
- 037 久住勸請已歸命礼三寶

【羽六八三ノ二―5】

- 038 至心隨喜所有布施福持戒修
- 039 善惠從身口意生起来今所
- 040 有習學三乘人具足一乘者
- 041 无量人天福衆等皆隨喜隨喜
- 042 ．． (礼) 三寶 至心迴向
- 043 ．． (作) 福業一切皆和合爲度郡
- 044 生苦正迴向仏道罪應如是
- 045 懺勸請隨喜福迴向已菩提
- 046 迴向已歸命礼三寶 至心發願
- 047 願諸衆生等悉發菩提心敬

【羽六八三ノ二―6】

- 048 常思念十方一切佛仏願諸衆生  
 049 永破諸煩惱了了見佛姓遊如  
 050 妙得等發願已歸命礼三寶  
 051 白衆等聽說寅朝清淨淨欲求  
 052 盡滅樂當沙門法於  
 053 食諸身命精鹿隨衆等諸  
 054 衆等今日寅朝清淨敬上從  
 055 下坐各已六念了也  
 一一三 羽七五五  
 【羽七五五R】  
 001 建中辛酉五月 朔廿  
 002 四日 沙州安九謨以清  
 003 酌之奠敬祭于故大  
 004 何孃之  
 005 靈伏惟三從備體四德  
 006 不獻榷家有節族内  
 007 白眉奈何挑疾醫  
 008 藥虛陳驅傍沒祭情  
 009 来 歆弥伏惟  
 010 尚饗  
 【羽七五五V】  
 001 身同一體五眼清淨惣圓明三種意生無  
 002 鄣礙菩提樹下度群生 發願已至心歸命礼三寶  
 003 一切誦 處世界 如虚空 如蓮花不着水 心清淨  
 004 超於彼 稽首礼 无上尊 發願 願以此功  
 005 德普及於一切 我等為衆生 皆共成仏道  
 006 礼懺已一切恭敬  
 007 歸仏得菩提 道心常不退 願共諸衆生 同歸寶相體  
 008 歸法薩般若 得大惣持門 願共諸衆生 同會真如海  
 009 歸僧息諍論 理衆稽無連 願共諸衆生 同入和合海

- 010 願諸衆生等 三業皆清淨 奉持諸仏教 和南聖衆尊  
 011 白衆等聽說黄昏无常偈  
 012 人間忽リ營衆務不覺年命日夜去如燈風  
 013 中滅難期忙リ六道無定趣未得下脱出苦海  
 014 云何安然不驚懼各聞強健有力時自策目  
 勵  
 015 例求常住 諸行无常 是生滅法 生滅リ已 寂滅為樂  
 016 如來入涅槃 永斷於生死 若能至心聽 常得无量樂  
 017 嘆仏  
 018 天上天下無如仏 十方世界亦无比 世界所有我盡見  
 019 一切無有如仏者 容顏甚其妙 光明照十方  
 昔  
 020 我釋曾供養 今復還親還  
 二 研究  
 二一 羽三九  
 二一一 羽三九R  
 羽三九Rは、杏雨書屋編『敦煌秘笈』影片冊一（二〇〇九、公益財団法人武田科学振興財団）二五八〜二六八頁に影印が掲載され、「七階佛名經」<sup>②</sup>と題名が付されている。内容は次の通りである。なお、〈矢吹〉で翻刻されている「S五九」との相違点を適宜示す。  
 L001-L033…礼仏五十三仏 一切諸佛×三・五十三仏  
 L034-L055…礼仏三十五仏 一切諸佛×三・三十五仏  
 L056-L070…礼仏二十五仏 一切諸佛×二・二十五仏  
 ※S五九では「三昌三礼」が「三礼」となっている。  
 L071-L080…礼仏長名の二仏  
 ※仏名の第一は、S五九では六三文字、羽三九Rでは六五文字。第二は同名。  
 L081-L090…懺悔文  
 L091-L098…廻向文  
 L099-L100…廻向偈  
 L101-L103…「一切誦」※S五九では「如來妙色身…」<sup>③</sup>のあとに「南无摩訶般



若…」。

- L104-L106…「梵唄文」 處世界の梵唄
- L107-L108…「説偈発願」※S五九では「説偈文」
- L109-L112…「一切恭敬」
- L113-L114…和南
- L115-L117…「黄昏無常偈①」※S五九では「黄昏偈」
- L118-L120…無常偈
- L121-L147…「晝夜六時発願文」※S五九になし
- L148-L151…「寅朝清浄偈」
- L152-L156…「午時無常偈」
- L156-L160…「黄昏無常偈②」 「人間匆匆營衆務…」
- L161-L164…「初夜無常偈」
- L165-L168…「中夜無常偈」
- L169-L172…「後夜無常偈」

首題・尾題共に欠だから、この題名は編集段階でつけられたものである。(宮井)を参考にすれば、題名が安定しないテキストであるため、「七階仏名」・「七階礼懺」・「七階礼懺文」等が適切と思われる(4)。楷書体で書かれており、書きぶりから「七」は筆者が別であることがわかる。

L121-L147の「晝夜六時発願文」はS五九にはなく、『集諸経礼懺儀卷上』(5)に同様の文があり、羽三九Rでは一部が省略され、四弘誓願が付加されている。また、『制法』(P二八四九)の礼仏法と『礼仏懺悔文』(S二五七四)中の『晝夜六時発願法』「行禪師撰」にも、L109-L113と同文が見られることから、二階教の礼仏法を規定した文の一部であることがわかる(6)。この晝夜六時発願法については、『西本』に詳しい(7)。

S五九と羽三九Rでは、黄昏無常偈①(S五九では黄昏偈)と無常偈の順序が逆で、羽三九Rでは、「諸行無常」ではじまる無常偈も黄昏無常偈に含めている。S五九の無常偈は「諸行無常偈」「黄氏偈」「初夜無常偈」「日午無常偈」の四つで、これらが連続して書かれ、「日午無常偈」のあとに「十方仏名」「懺悔文」「寅朝礼懺文」「尾題」と次第する。羽三九Rには、S五九にある「十方仏名」「懺悔文」「寅朝礼懺文」などはない。

六時の無常偈が全て揃って連続して書かれる形式は、典型的な七階礼懺文や他の系統の礼懺文にもみられず、「人間匆匆營衆務…」の黄昏無常偈は「往生礼讚文」にしかみられない(8)。よって、羽三九Rは型としては七階礼懺文の系統であるが、往生礼讚文が考慮されなければ書けない礼懺文であることがわかる。

## 二―二 羽三九V

内容は次の通りである。

- L003-L006…帰依三宝
- L006-L007…和南
- L007-L010…「此時無常偈」「寅朝礼懺」 無常偈は『法華経』の一節を使用(9)
- L011-L021…礼仏 八方向の一つが不足
- L022-L032…所為 末尾が不完全
- L032-L037…懺悔・勸請・随喜・廻向・発願 内容が不完全
- L038-L040…寅朝清浄偈
- L041…六念
- L042-L043…和南

羽三九Vには、六種の文が書かれており、(一)般若波羅蜜多経経題、(二)金光明寺主恵登書状羽皇字、(三)舜子變、(四)大般若波羅蜜多経経題、(五)般若波羅蜜多心経、(六)禮懺文、と題名が付されている。(一)～(五)までは用紙の右端から始まり上から下へ、(六)は左端から始まって下から上へ上下逆さまに書かれている。(一)を書くときに紙の上下を逆にして右端から書き始めたことがわかる。(三)はある程度まとまった文字量があるが、(二)～(四)～(五)は、文字量が少なく、習字の跡が残っているなど、六種の配列に何か明確な意図を読み取ることは難しい。書かれ方を見ると、(一)～(四)～(五)を避ける形で(三)が飛び飛びに書かれているので、余白の大きかった紙を再利用する形で(三)を書き込んでいったと想像したい。

(一)には「般若波羅蜜多心経一卷 如是我聞一時薄伽梵住王舍城鷲峯山中與大衆及諸菩薩摩訶薩俱」とある。この『般若心経』は、序文を持ついわゆる大本の『般若心経』で、「大苾芻衆」のあとが「及諸菩薩」であることから、法成訳であることがわかる(10)。法成は八世紀後半から九世紀中頃のチベット僧で、廢仏により敦煌に逃れて訳経に従事した僧で、同一の序文をもつ『般若心経』はそれ以前には存在しないか

ら、羽三九Vも八世紀後半以降のものであるといえる。

(六) 礼懺文も同時期のものであると考えるのが自然であろう。字粒は大きく豪快な行書体だが、右上がり強く、かなり急いで書かれていることがわかる。「帰依三宝」から始まっているが、前の行にも三文字確認できるから、当初は「帰依三宝」以前にも文字があったものの、後に冒頭の敷衍が摩耗して見えなくなったことになる。内容は、「寅朝礼懺」「寅朝清浄偈」と記されているように、寅朝礼懺文である。

〔注〕が「寅朝禮」を三類型に分けた乙類、即ち、十方佛を礼拝するが十方佛の仏名を明確に指示しない類型のものと一致するところが多い。乙類の資料としてP二六九二とP三〇三八を使用している(11)。

羽三九のRとVは、直接的な関係を示すものはないが、同一用紙の表と裏なので、同時期のものと考えるのが自然かと思う。しかし、書きふりがあまりにも違うことや内容の完成度の差に鑑みても、一連の流れで書かれたものとは言い難いだろう。

同一紙に書かれた法成訳般若心経の存在が、この礼懺文が八世紀後半以降に敦煌地方で使用されていたことを示している。

## 二二二 羽六八三

羽六八三は、杏雨書屋編『敦煌秘笈』影片冊九(二〇二三、公益財団法人武田科学振興財団)五一〜五五頁に影印が掲載されている。

## 二二二 羽六八三一

内容は次の通りである。

### L001-L004…初夜無常偈

縦十四・五cm×横十・二cmの冊子で、四枚の紙を重ねた中綴じ形式。題名は「擬無常偈」としている。内容は初夜無常偈で、文字に相違はあるものの、S五九の典型的な七階礼懺文にある初夜無常偈と同文である。冊子本の表紙の表に文があることが不自然とみため「擬」としたのだろうか(12)。

## 二二二 羽六八三二

内容は次の通りである。

### L001…寅朝礼

### L002-L009…礼佛

### L009-L014…礼三宝

### L014-L027…所為

## L027-L033…至心懺悔

## L033-L037…至心勸請

## L038-L042…至心随喜

## L042-L046…至心廻向

## L046-L050…至心發願

## L051-L053…寅朝清浄偈

## L053-L055…六念

題名は「寅朝礼懺文」としている。尾題を「下座各已六念了也」としているが、これは礼懺文の一部なので「尾題は欠」ということになる。〔注〕で「寅朝禮」を三類型に分けた甲類、即ち、「東方全徳佛」など、礼拝の対象となる十方佛の仏名を明確に指示する類型のものと一致する。〔注〕の分類では甲類が最も多く、当該資料として十三本の写本を提示している(13)。

寅朝礼には、六念の詳細が続くものや、さらに「三帰依」「和南」が続くものなどがあるが、羽六八三はこのままで終わっている。

## 二二三 羽七五五

羽七五五は、杏雨書屋編『敦煌秘笈』影片冊九(二〇二三、公益財団法人武田科学振興財団)三〇一〜三〇四頁に影印が掲載されている。

## 二二三 羽七五五R

内容は次の通りである。

### L001-L010…祭文

題名は「建中辛酉五月沙州安九謨大草信札」としている。建中辛酉(七八一年)に敦煌の安九謨が大字の草書で書いた書簡ということになるが、内容からこれは祭文であることがわかる。L010「尚饗」の二字は祭文の末尾に用いる語であり、L002-L003の「清酌」は神仏に献じる酒のことで、それを若くして亡くなった自分の娘に捧げ霊をまつるといった内容である。極めて優れた人物でありながら、薬石の効なく亡くなつてしまったことを歎いている。

## 二二三 羽七五五V

内容は次の通りである。

### L001-L002…至心發願

### L003-L004…「一切誦」 處世界の梵唄

L004-L005…「発願」

L006-L010…三帰依

L011-L015…黄昏無常偈

L015-L016…諸行無常偈

L017-L020…「嘆仏」

題名は「黄昏礼懺文」としている。黄昏無常偈があるのでそのようにしたのでろう。

L002に「発願已至心帰命三寶」とあるので、発願の内容が前段にあると思われるが、七階礼懺文系統でL001-L002のような発願の内容をもつものは見られず、「文殊師利菩薩無相十禮」に近い表現があることが分かった。〈注〉はこれを「法身礼（無相礼）」とし、法身礼をさらに三類型に分け、その中の丙類に分類している<sup>(14)</sup>。〈注〉が丙類の資料として使用しているのはP二二二で、羽七五五Vの発願に近い文は次の傍線箇所である。

至心發願 令諸衆生妨六賊 悲智二照現前行 不斷不常離無量 非空非有惶了行  
四智三身緣彼體 三身緣彼體 五眼常照浪三明 三衆意生無障礙 菩提樹下度群  
萌 發願已歸命禮法身如來一切恭敬

歸佛德菩提 道心恒不退 願共諸衆生 同人眞如體

歸法薩般若 得大總持門 願共諸衆生 同入眞如海

歸僧息諍論 同入和合海 願諸衆生等 悉發菩提心

三業恒清淨 和南衆法身佛<sup>(15)</sup>

このように、「法身礼」P二二二には、一切誦はなく、発願のあと三帰になる。三帰文も、二句目と四句目に一致しないところがあるが、「願共諸衆生」という表現はある。このあとに「眞朝清淨偈 欲求寂滅樂…」「午時無常偈 人生不精進…」と続くが、黄昏無常偈はなく、その後の無常偈や歎仏もない。

〈注〉が七階礼懺系の「黄昏礼」として甲乙丙三種に分類した七本の写本はいずれも、一切誦↓説偈発願↓三帰依↓黄昏（無常）偈↓無常偈という流れで羽七五五Vと一致するが、三帰依が「自帰依…」であり、無常偈も、甲類は「黄昏無常偈 西方日已暮…」、乙類は「晡無常偈 西方日已没…」、丙類は「此時偈 世界不牢固…」で、「人間忽忽營衆務…」はない<sup>(16)</sup>。なお、七階礼懺文の典型S五九でも「黄昏偈 此日已過…」としている。

また、〈注〉が十二光礼懺系として七本の写本を甲乙二種に分類したうちの乙類と流

れはおおかた一致するが、発願の内容が違ふ。また、無常偈は「辰朝清淨偈 欲求寂滅樂…」であり、諸行無常偈のあとに嘆仏はない<sup>(17)</sup>。さらに、〈宮井〉が対応表で使用しているP二七二二「往生礼讚文」と流れは一致するものの、発願の内容が違い、一切誦がなく「次作梵」とあるので、説偈発願の偈文も違ふ。三帰依は各偈の書き出しが同じものの、その後の内容が違ふ。無常偈は一致するが、諸行無常偈と嘆仏がない<sup>(18)</sup>。

L018-L020の「嘆仏」と見出しのある箇所には、「天上天下無如仏…」「容顔甚其妙…」と二種類の歎仏の偈が書かれている。前者は十二光礼懺文の乙類写本の前半にあるし<sup>(19)</sup>、『集諸祥礼懺儀』にも見られるが<sup>(20)</sup>、「容顔甚其妙…」は礼懺文の歎仏には見つけられなかった。近い偈文として、羅什訳『妙法蓮華經』の讚佛の偈「容顔甚奇妙 光明照十方 我適會供養 今復還親覲<sup>(21)</sup>」が挙げられる。

このように羽七五五Vは、流れとしては七階礼懺文系・十二光礼懺文系・往生礼讚文系と一致してくるものの、各項目の内容は様々なものが混在しているといえる。「往生礼讚文」にしか見られない「人間忽忽營衆務…」の無常偈が「黄昏無常偈」として記され、その前後は他の各種礼懺文と一致していることに注目したい。

『敦煌秘笈』では、「建中辛酉」から始まる祭文の面を表、礼懺文の面を裏としているが、界線を引いて謹嚴な楷書体で礼懺文を書いている面を表とすべきではないだろうか。この面には、文字が二十行残っているが、紙が不自然に切られているため、前後にも文字があつたと考えられる。一切誦・無常偈・歎仏等書かれている部分を切り取り、その裏に祭文を書いて、安九謨という人物が自らの娘の菩提を弔つたと推察できる。なお、書きぶりから表と裏の書写者は同一ではないといえる。安九謨が何らかの方法で礼懺文を入手し、その裏に、失意の中にもありながらも丁寧に祭文を書き上げた想像できる。草書体のくずしを用いながらも、かすれや連綿はなく、一字一字慎重に筆を運んでいる。

表と裏で大きな時間の隔たりはないと考えるのが自然であろう。そうであるならば、七八一年頃に敦煌地方では、七階礼懺文系・十二光礼懺文系・往生礼讚文系の礼懺文と礼讚文が揃っており、特定の形式に拘束されずに、ある程度自由に使用していた可能性を示すことができる。

また、仏道修行者が自らの修行の一環として礼懺文を使用した儀式をしていただけでなく、仏道修行者ではない立場の人が死者の菩提を弔うために適した文章として「礼

懺文」を捉えていたという可能性も示すことができる。  
小結

以上、『敦煌秘笈』所収の礼懺文として、羽〇三九・羽六八三・羽七五五の三本を取り上げて翻刻作業と若干の研究を行った。三者に直接的な関係はみられなかったが、敦煌地方に伝わった礼懺文の多様性を確認することができた。また、羽七五五には年代と人名が記載されていたため、その使用実態がより鮮明になったといえよう。

### 〔注〕

(1) 矢吹慶輝『三階教之研究』(岩波書店、一九二七)で、S五九『七階佛名』を底本として教本を対校した礼懺文が翻刻され、七階礼懺文の典拠が示されたこと(五二二―五三六頁)が七階礼懺文研究の嚆矢であった。

それから半世紀を経過して、廣川暁敏が「敦煌出土七階仏名経について―三階教と浄土教との交渉―」(『宗教研究』二五二号、一九八二)で二七本もの礼懺文を整理し、系統の分類を試みている。

西本照真『三階教の研究』(春秋社、一九九八)では、新たに翻刻した三階教語文獻の中に七階礼懺と同様の儀礼がみられることを指摘している。

汪娟『敦煌禮讀文研究』中華佛學研究所叢書一八(台湾・法鼓文化、一九九八)では、七階礼懺に限らず、法身礼・十二光礼・金剛五礼・上生礼・讚礼・地藏菩薩懺悔發願法といった様々な礼懺文について、膨大な敦煌文獻を整理している。

宮井里佳『善導浄土教の成立についての試論―『往生礼讚』をめぐる―』(『荒牧典俊編』北朝隋唐中国仏教思想史)法蔵館、二〇〇〇、所収)では、往生礼讚文・敬礼法(『国清百録』・十方仏名経(『集諸祥礼懺儀』)・十二光礼七階礼懺の対応表を作成し、『往生礼讚』と各礼懺文との関係を精査し、影響の過程を指摘している。

柴田泰山『善導教学の研究』(山喜房仏書林、二〇一四)は、これらの研究をふまえ、『七階仏名』と『往生礼讚』の一部を対照して接点を指摘し、『往生礼讚』の原初形態を『七階仏名』(S五九)にみることをできる。(二八頁)としている。

本文では、いま挙げた矢吹の著書を(矢吹)、西本の著書を(西本)、汪の論文を(汪)、宮井の論文を(宮井)と表記する。

(2) (宮井)の対応表と矢吹の翻刻を参考にした。

(3) 「如来妙色身 世間無與等 無比不思議 是故今敬禮 如来色無盡 智慧亦復然 一切法常住 是故我歸依 降伏心過惡 及與身四種 已到難伏地 是故今敬禮 敬禮過稱量 敬禮無譬類 敬禮無邊法 敬禮難思議 哀愍覆護我 令法種增長 此世及後生 願佛常攝受」(正蔵二・二二七上・中)と「勝曼經」の一節がそのまま引用されている。S五九では、「已到難伏地」と「是故今敬禮」の間の「是故禮法王 知一切爾焰 智慧身自在 攝持一切法」が落ちてゐる。なお、S五九では、梵唄(如来唄)が「如来妙色身」の文なので、ここで再度使用されていることになる。

(4) 廣川は注1前掲論文で、七階仏名経と七階礼懺を区別し、前者から後者へ発展したとするが、(宮井)では、内容が重なるものの七階礼、仏説七階礼仏名経、仏説觀藥王藥上二菩薩經等略礼七階仏懺悔法二卷、といった異なった題名が付されている写本が複数あることから、明確な区別はなかったとしている。

(5) 正蔵四七・四六五頁中下

(6) (西本) 四四二―四四三頁

(7) (西本) 四四四・四七一頁

(8) (汪)の整理による。「往生礼讚文」については、十二光礼のところと同系統のものとして比較している(七五―一四頁)。

(9) 「世皆不牢固 如水沫泡焰 汝等咸應當 疾生厭離心 羅什訳『妙法蓮華經』正蔵九・四七頁中。完全には一致しない。

(10) 福井文雅『般若心経の総合的研究―歴史・社会資料二』(春秋社、二〇〇〇)六二、四八三―四八九頁

(11) (汪) 一五二―一六四頁

(12) 『敦煌秘笈』記事の翻刻に誤字脱字がある。

(13) (汪) 一五一―一六四頁

(14) (汪) 三三―七四頁

(15) 正蔵八五 二二九六頁下

(16) (汪) 一六四―一七九頁

(17) (汪) 七五―一四四頁

(18) (宮井) 三六七頁で、「次作梵」の梵唄は「處世界……」であらうとしている。

(19) (汪) 八〇頁

(20) 正蔵四七・四五七頁中

(21) 正蔵九・五三頁下